

# 満願寺二つの創建伝説

## 『神秀山満願寺縁起』

もっとさかのぼるとどうか？  
これは発掘ではそこまではわかっていないのですが、江戸時代の『神秀山満願寺縁起』というものをみますと左のように2つの違う話があります。

奈良時代 神亀元年 (724年)  
比叡山の北方、絹川に千手観音像が出現。これを発見した荒木など6氏は夢告により摂津国川辺郡栄根村に移す。  
その後満願寺に移り一堂を建立したのが奥の院の始まりである。  
※奥の院の由来縁起

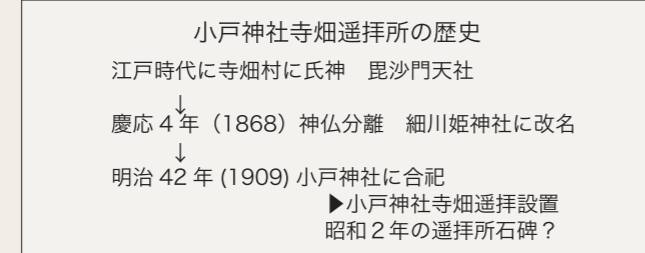
聖武天皇の代  
勝道上人は、聖武天皇の命により全国に満願寺を建立。この地を訪れた際、千手観音の靈感を得て、金堂・法華堂などを建立した。  
※金堂（本堂）の由来縁起

なかなか創建伽藍がわかりませんが、奈良時代は山林で修行する寺院があちこちに造られたので満願寺でも山林寺院であったのではないかとこれから究明していく課題になります。

# 小戸神社寺畑遥拝所

## 寺畑に残る遥拝所

川西市の寺畑に残る小戸神社寺畑遥拝所についてお話をさせていただきます。  
江戸時代に寺畑村に氏神 毘沙門天社があり、毘沙門天社といわれていました。明治時代になり神社に仏教の毘沙門天ではおかしいということで神仏分離が行われ、細川姫神社に改名しています。更に明治の終わりに合祀事業といって神社の整理が行われました。この時に小戸神社に合祀されています。そのために地元には氏神様が無くなくなってしまい、その時この場所に小戸神社寺畑遥拝所が作られたと考えています。



小戸神社寺畑遥拝所

## 銭屋五兵衛の顕彰碑と花屋敷温泉

現在栄根寺の旧境内に残っている銭屋五兵衛の顕彰碑は東塚一吉の援助で建てられたと書かれています。当初、顕彰碑は細川姫神社の旧境内に建てられていたと考えられます。大正4年の古い文献『摂北温泉誌』に花屋敷駅の北一丁に顕彰碑があると書かれていますので、ちょうどこの場所です。東塚一吉は花屋敷温泉事業を開業したこと



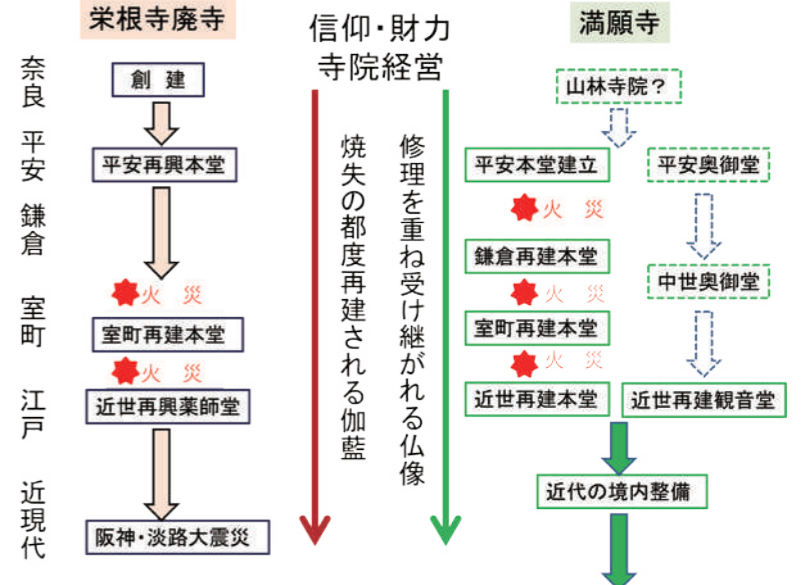
で有名ですが実態はわかっていません。合祀の際に旧境内地が払下げとなり、東塚一吉が買い取りここに花屋敷温泉や銭屋五兵衛の顕彰碑を建てたのではないかと考えられます。小戸神社遥拝所は合祀直後には細川姫神社の旧境内に設けられたと考えられますが、現在の小戸神社寺畑遥拝所には合祀から約20年後の昭和2年に設置された石碑があります。ちょうど昭和3年に無軌道電車が開業しており、この発着所が

## おわりに



写真は満願寺の本坊前の参道です。紅葉が大変美しい光景なのですが、千年以上続いた歴史の重みがあってこそより素晴らしく感じられるのだと思います。

皆様にはこのような素晴らしい光景がある地域に住むことを誇りにしていただきたいです。さらに深く知るほどこの光景がより美しく感じられるのだと思います。ぜひ地域の歴史を調べてみてください。



栄根寺廃寺と満願寺の比較  
話してきた栄根寺廃寺と満願寺を並べてみますと上のようになります。いずれも千年以上続いてきた寺院です。その間たびたび火災に遭いましたが、その都度伽藍は再建され伽藍も修復が重ねられ維持されてきました。それも僧侶や信仰を寄せた人々の努力があったことだと思えます。満願寺は現在も法灯を伝えていますが、残念ながら栄根寺は廃寺となり薬師堂の再建が待たれるところです。このような先人たちの営みを両寺院の歴史に感じていただけたらと思います。

<p>東塚一吉の花屋敷温泉事業</p> <p>明治40年頃花屋敷温泉計画 明治42年合祀後の旧境内地払下？ 旧境内に五兵衛碑建碑 ▶名所作り・西光寺の意向 旧境内に花屋敷温泉建設？ 箕面有馬電気軌道との協議 ▶花屋敷停留所の設置</p>	<p>田中数之助の新たな花屋敷温泉事業</p> <p>大正8年：能勢口土地株式会社 大正9年：新花屋敷温泉土地株式会社 大正13年頃：無軌道電車事業計画 旧境内地・花屋敷温泉買収か？ 昭和2年現遥拝所設置 旧境内の灯籠・誠誓碑移設か？ 昭和3年：無軌道電車開業 昭和7年：無軌道電車廃止</p>
--	---



銭屋五兵衛の顕彰碑

# 日本初の無軌道 電車が走ったまち

一世紀前に日本最初のトロリーバスがこの雲雀丘花屋敷の坂道を走っていました。当時は無軌道電車と呼ばれていました。これは皆さんの地域の貴重な歴史であり、誇りでもあります。

森 五宏 NPO 法人 KOALA 理事長

## クイズ!

- トロリーバスはどれでしょう?  
 「①バスである」「②鉄道である」  
 「③鉄道でもない、バスでもない」

答えはこの下にあるよ

# トロリーバス

## 日本最初のトロリーバス

この写真は昭和3年雲雀丘花屋敷で運行していたトロリーバスの様子です。線路はありませんが、屋根上のヘッドライト、ポールがあり阪急電車に似ていると思います。



新花屋敷トロリーバス

私がトロリーバス取材に参りました30年前、帰りのバスの中でご老人が、誇らしげに日本初のトロリーバスが走ったまちを自慢げに語っていただきました事を思い出します。

## 2 架線から得る電気を動力として走る

架線から電気をつないでいるので、充電が必要な電気自動車よりもパワフル！排出ガスによる公害がなく、クリーンエネルギーな乗り物なのです。

## 3 車輪はゴムタイヤ

鉄輪より摩擦に強く、急な坂道もぐんぐん進む！



答えは、②鉄道。トロリーバスは非常にマイナーな乗り物で、電車でもない、バスでもない、異端児の珍しい乗り物です。

## トロリーバスの特徴

戦後、日本では石油燃料事情が好転しないという状況で、電車より建設費が安いトロリーバスが普及しました。

## 1 見た目はバスだけど、架線のあるところだけ走れる「鉄道」

トロリーバスは、実は鉄道的一种として区分されています。日本での法律用語は無軌道電車といえます。

## 世界各地の トロリーバス

今でも世界各地 約40か国300都市で公共交通として利用されています。以前は旧ソビエト、中国、共産圏が中心でしたが最近ではタイヤトラムとしてヨーロッパでも活躍しています。イギリスのトロリーバス会社代表は専門誌に次のように述べてい

ます。「確かにトロリーバスは路面電車とバスとのコンビネーションの産物である。しかし、ただの雑種(バスタード)と交配種(ハイブリッド)とは全く違うものである。前者は偶然二つのものを混ぜ合わせた物であり、後者は二種類の最善の特質を統合し組み合わせられた成果である」この事からもお察し頂けるのではないかと思います。

### さまざまな世界での呼び方

- イギリス、フランス …トロリーバス
- アメリカ …トロリーコーチ、トラックレス・トロリー
- ドイツ …オープス
- イタリア …フィロバス
- アメリカの鉄道専門誌…トランジット・ステップチャイルド (都市交通の継子)
- 日本 …無軌道電車 (導入時)



ブラジル・サンパウロ



ロシア・モスクワ



スイス・ジュネーブ



北朝鮮・平壤

## 日本のトロリーバス 運行都市

日本では戦後の昭和30年代をピークに京都市(昭和7年)、名古屋市、川崎市、東京都、大阪市、そして横浜市の各交通局、主に大都会の都市交通として路面電車とともに活躍していました。

その後、各地のトロリーバスはモーターゼーションの波に飲み込まれ、路面電車と共に一か所一



東京都



名古屋市



横浜市



大阪市

か所と姿を消し、ついに昭和47年(1972年)横浜市を最後に都市交通から完全に姿を消してしまいました。40年間の運行期間でした。

現在では中部山岳国立公園内の立山黒部アルペンルートの立山トンネルで環境にやさしい乗り物として観光客向けに運行されています。

(関電トンネルトロリーバスも67年からバッテリーバスに置き返されています)

## トロリーバスに興味を持ったきっかけ



日本のトロリーバス



関電トンネルトロリーバス



## 関電トンネルトロリーバスの開業

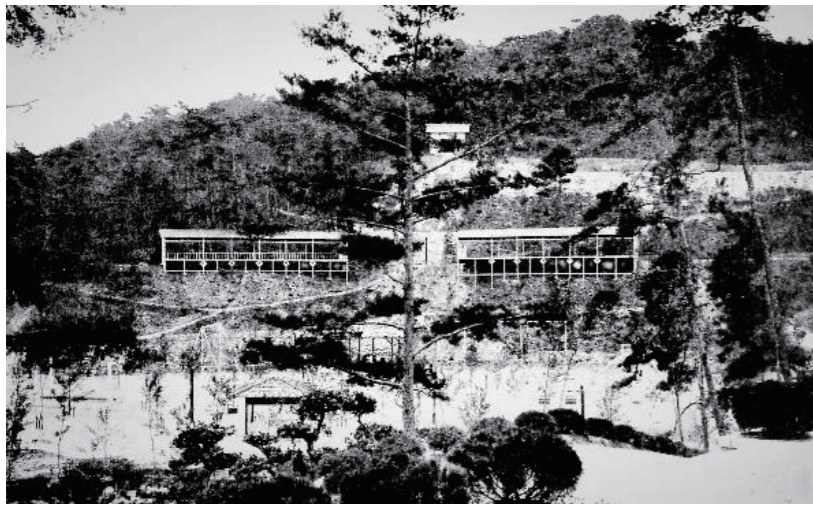
平成6年(1994年)に黒部ダム(トロリーバスが運行30周年を迎える時、私は関西電力本店総務室に勤務し、黒部事業に従事していました。関電トンネルトロリーバスは昭和38年6月の黒部ダム竣工の翌年、昭和39年(1964年)8月1日に開業しました。

私は30周年事業を企画する段階で、いまこそ、日本各地で活躍したトロリーバスの足跡をたどり、環境に適したこの乗り物を再評価すると共に、それらを記録に残すことが、関電トンネルトロリーバスの30周年記念事業にふさわしいのではないかと考えました。その一つとして、「日本のトロリーバス」30周年記念出版に漕ぎつけました。

取材でトロリーバスの資料を収集しているうちに、鉄道の仲間であるにもかかわらず、路面電車の陰に隠れ、文献や

資料は余りにも少なく、過去の遺物として葬られてしまう予感さえしました。路面電車やバス同好会のメンバーに当たりました。しかし、我々の分野でないと無視されるありさまでした。それは納得がいきませんでした。トロリーバスには軌条がありません。無軌条です。よって、線路が無いのは鉄道の仲間でないのです。

また、バスの屋根に2本のポールがついて架線から電気を引き、モーターで駆動します。そのためバスの仲間にも入れてもらえないのです。その電車とバスの狭間(はさま)でひっそりと日陰の身だったのです。そのため、関心もファンも少なく過去の遺物として葬られてしまいう予感さえしました。ここで、誰かが救いの手を差し出す必要がある。と強く感じました。今振り返りますと、私が現在までトロリーバスに関わってきた原点ではないかと思えます。



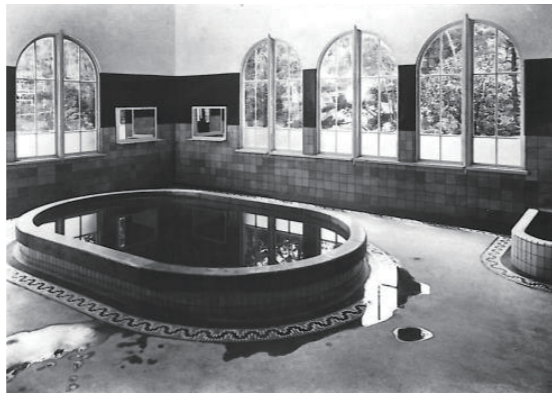
**新花屋敷温泉の創業**

明治から大正に入り、第一次世界大戦後の好景気により郊外の住宅地開発が盛んに行われるようになりました。大正8年（1919年）に久留米耕販売で財をなした大阪の呉服商田中数之助氏も能勢口土地（株）を設立して、住宅地開発に参入します。翌年には社名を新花屋敷温泉土地（株）と改め、土地開発と共に遊園地や温泉設備を計画します。これが新花屋敷温泉なのです。

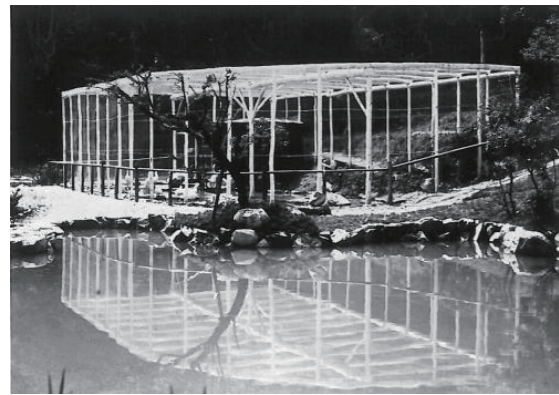
開発地は満願寺の近く、兵庫県川辺郡西谷村切畑字長尾山、現在では宝塚市と川西市の境に位置しています。



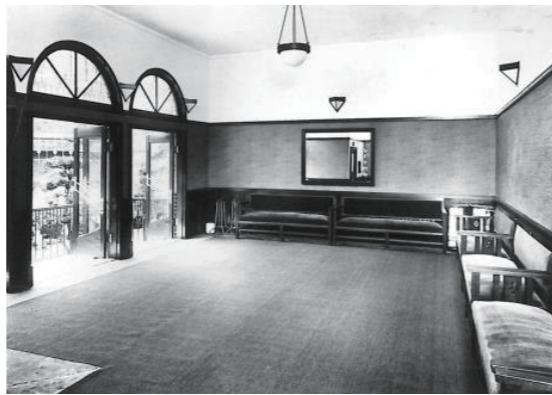
新花屋敷温泉・遊園地の風景



大浴場



モダンなロビー



**広大なレジャー施設**

この温泉場は今で言うヘルスセンターとレジャーランドをミックスしたモダンな温泉保養施設でした。すでに開業している宝塚新温泉と競ったようにも思われます。

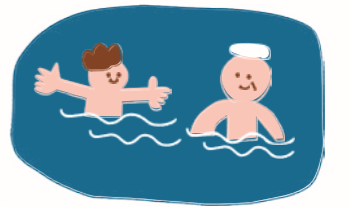
回廊のあるイタリア中世風のモダンな洋風二階建ての建物で、一階の温泉は楕円形のお風呂でロマネスク調の円形の窓があり、床のタイルはモザイク模様がほどこされていました。中でも家族風呂が大変人気だったようです。二階がレストラン、昼食のカレーライスが好評だったそうです。

温泉場の周囲には遊園地を併合しました。動物園には猿やクジャクが見られ、池には亀やコイが浮かび、桃太郎神社の周りには、日本一のメリーゴーランドがあり、子供連れに人気がありました。また、付近一帯はマツタケの産地で、秋晴れには松茸狩りで賑わいました。（ちなみに満願寺前の料理旅館では松茸飯付きすぎ焼の値段は2円が相場でした。）春の満願寺の桜の花見会、秋の松茸狩りのシーズンは行楽客で賑わったようです。

## 新花屋敷温泉



新花屋敷温泉のパフレット



昭和3年（1928年）、日本最初の無軌道電車の運行と同時に温泉場、遊園地が開業しました。満願寺の付近の長尾山2万坪の敷地にお洒落な洋風2階建の温泉場と遊園地が存在したのです。この地域の温泉の始まりからさかのぼってみましょう。

### 初期の花屋敷温泉

明治40年（1907年）頃、満願寺の近くに、東塚一吉氏により炭酸泉を利用した温泉設備、炭酸泉花屋敷温泉を作ったのが始まりと言われています。炭酸泉温泉が発見され、その後、箕面有馬電気軌道（阪急）が明治43年（1910年）に梅田から宝塚間の開通し、寺畑地区に花屋敷駅を設けました。よって、付近一体が花屋敷と呼ばれるようになりました。

東塚氏はここで花屋敷温泉旅館を経営していました。花屋敷駅からは当時珍しい外車の幌付きオープンカーを導入しており、お客の送迎をしていました。

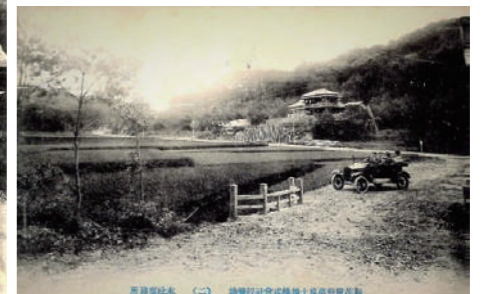


昭和初期の雲雀丘花屋敷 地図

この地は日当たりの良い南斜面の丘陵地で、果樹栽培が盛んに行われていました。奥の北山には松林が広がり松茸が大量に取れたそうです。



満願寺付近の農家



幌付きオープンカーで客送迎